

Book Review



歯界展望別冊 臨床をレベルアップさせる X線写真・口腔内写真・ プレゼンテーション

宮地建夫・藤関雅嗣・野嶋昌彦・鷹岡竜一 編集



Reviewer

矢崎秀昭 Hideaki Yasaki
(東京歯科大学同窓会会長)

A4判変, 144頁
オールカラー
定価(本体 5,800円+税)
医歯薬出版刊



編集代表として宮地建夫先生が序文に書いているように、生涯にわたって充実した歯科医師としての人生を送るためには、患者だけでなく他の歯科医師の信頼をも得ることが大切である。著者の方々はそれぞれ、長年にわたりスタディグループや大学の同窓会の卒業研修セミナーなどで、卒業直後の若手の歯科医師を指導し、多くの一流の臨床歯科医師の育成に関わり、多大なる成果をあげている。その多くの経験のなかから、歯科医師が自分の臨床のレベルを上げるために最も重要であるのは「X線写真、口腔内写真、そしてプレゼンテーション」であるとして、その基礎から臨床、さらにその具体的な方法まで詳細に記載されていて、若手の歯科医師だけでなく、経験を積んだ方々においても、大いに参考になると思われる。

まず日常多数撮影しているデンタルX線写真について、その撮影方法や現像、さらにその保存方法など臨床の経過を診るうえでの重要性が示されていて、自分の診療においてX線写真の役割の大きさを再確認することができた。また初診で撮影した1枚のX線写真が、その歯牙の生涯にわたる経過

を語るうえで、いかに大切であるかについて読者は知ることができると思われる。

現在、若手の歯科医師は、口腔内写真の撮影は、あまり抵抗なく行っている。術前の記録として口腔内の写真を撮影しておくことは、自分の行った診療の経過を正確に診るうえで欠かせないものである。さらに口腔内写真は患者とのコミュニケーションを構築し、治療に対する十分なる理解を得る手段として欠かせないものとなっている。さらに、スタディグループでの症例報告などにおいては、規格に合った口腔内写真を撮影することが必要である。本書においては口腔内撮影の基本的な事項と、さらに十分にプレゼンテーションにも応用できる、写真撮影の機材やその撮影方法について、たいへんわかりやすく記述されている。

品質の良いX線写真や口腔内写真などの基本的な診療記録が整備できたら、仲間同士の勉強会やスタディグループにおいて、自分の臨床を提示するプレゼンテーションを行うことが、自分の臨床のレベルをさらに飛躍的にアップするうえでどうしても必要なこととなる。

本書においては、1枚のX線写真から、10年以上経過した長期症例の経過まで、そのプレゼンテーションの基本的な考え方や、具体的な実践方法まで詳細なる記述があり、臨床研修医や若手の歯科医師にとってたいへん参考になると思われる。さらに若手の歯科医師によるプレゼンテーションを誌上に置いて、症例提示から症例報告、さらに症例検討という各ステップについて具体例が掲載されていて、実際に症例検討会などを進めていくうえで大いに参考になると思われる。

本書は特に臨床研修医として生涯にわたる歯科医療に取り組み出した方にぜひ読んでいただきたいと思う。また、実際にすでに歯科治療に取り組んでいるが、さらなる自分の臨床のステップアップを考えている歯科医師においてもたいへん多くの示唆を受けるものと思われる。

このような症例検討会を実際に体験するには、東京歯科大学同窓会のホームページに掲載されているように、本書の著者の方々が、年度初めや、年間を通じて毎週のように夜分に行っている勉強会に一度参加してみることをお勧めする。